

令和 6 年 5 月 25 日現在

機関番号：13301
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2021～2023
課題番号：21K02703
研究課題名(和文)「吃音のある幼児から高校生のためのサポートブック」を活用した指導・支援法の開発

研究課題名(英文) Development of the support method using the "Support book for children and adolescents who Stutter"

研究代表者
小林 宏明(Hiroaki, Kobayashi)
金沢大学・学校教育系・教授

研究者番号：50334024
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、幼児期から高校卒業まで継続して使用できる「吃音のある子どものためのサポートブック」(以下、吃音SB)を作成することを目的とする。上記の目的を達成するために、まず、吃音のある子どもの保護者14名を対象に面接調査を行い、幼児から高校生までの吃音のある子どもの毎日の生活における困難やサポート(配慮・支援)のニーズを把握した。続いて、上述の面接調査の結果に基づき、(1)保護者向け、(2)吃音のある子ども(小学生以上)向けからなる吃音SBを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、吃音のある保護者への吃音のある子どもの毎日の生活における困難やサポートのニーズに関する面接調査の結果を踏まえて、吃音SBを作成した。吃音のある子どもを対象としたサポートブックはこれまで開発されていない。また、本研究では、保護者向けに加え、吃音のある子ども向けのサポートブックも作成した。本研究で作成した吃音SBは吃音のある保護者への支援に加え、吃音のある子どもへの自身の吃音の理解や自ら必要な支援を周囲に求めるセルフアドボカシーの指導・支援の充実・発展に寄与すると考える。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to create a 'support book for children who stutter' (hereafter referred to as 'stuttering SB') that can be used continuously from early childhood to high school graduation. To achieve the above objectives, the following research was conducted. First, an interview survey was conducted with 14 parents of children who stutter to understand the difficulties and needs for support (care and assistance) in the daily life of children who stutter, from infants to high school students. Then, based on the results of the above-mentioned interview survey, a stuttering SB was developed, consisting of (1) one for parents and (2) one for children who stutter (elementary school age and above).

研究分野：特別支援教育(言語障害教育)

キーワード：吃音 幼児・児童・生徒 指導・支援法 サポートブック 合理的配慮

1. 研究開始当初の背景

吃音は、幼児期で5%以上、学齢期以降で1%程度と比較的多く見られる障害である。幼児期に吃音のある子どもの8割程度は学齢期までに吃音が焼失する自然治癒が見られるが、学齢期になると吃音が完全に消失することは少なくなり、長期的な支援が必要となる。近年、吃音のある人への支援においては、吃音の言語症状だけでなく、発話への不安や自己効力感の低下などの心理症状、からかいなどの周囲の環境の問題なども取り扱う多面的・包括的指導支援が広く支持されている。特に、周囲の環境の問題は、障害者差別解消法の制定に伴う基礎的環境整備、合理的配慮への対応や、インクルーシブ教育の推進などが叫ばれる中、その重要性が高まっている。

吃音のある子どもの支援は、言語障害通級指導教室での通級指導、病院などの言語聴覚士が行う言語療法が中心的な役割を果たしている。そして、前述したように、吃音のある子どもの支援では周囲の環境の問題を取り扱う必要があるため、通級指導、言語療法は指導室内だけで完結せず、吃音のある子どもが毎日の生活を過ごす、家庭、学校、習い事などでの配慮や支援が必須となる。そのためには、保護者、教師、習い事の指導者などが吃音を適切に理解した上で、配慮や支援を行う必要がある。ところが、教師などの吃音への理解や配慮は徐々に高まってはいるものの、十分とはいえない現状がある。

ところで、近年、発達障害のある子どもなどを対象に、サポートブック作成の取り組みがされている。サポートブックとは、進学や進級などで子どもを取り巻く環境が変わっても一貫した支援が継続して行えるよう、子どもの障害の特性やこれまで受けてきた配慮や支援の履歴を冊子にまとめたものである。発達障害のある子どもなどの支援では、サポートブックの有用性が広く認められてきており、希望者に配布をしたり、Web上から様式をダウンロードできるようにしたりする都道府県や区市町村が増えている。しかし、これまで、吃音のある子ども向けに特化されたサポートブックは開発されていない。さらに、これまでに作成されているサポートブックは保護者向けであり、子ども向けは開発されていない。

2. 研究の目的

本研究は、幼児期から高校卒業まで継続して使用できる「吃音のある子どものためのサポートブック」(以下、吃音SB)を作成することを目的とする。上記の目的を達成するために、まず、吃音のある子どもの保護者への面接調査を行い、幼児から高校生までの吃音のある子どもの毎日の生活における困難やサポート(配慮・支援)のニーズを把握する。続いて、上述の面接調査の結果に基づき、吃音SBを作成する。

3. 研究の方法

(1) 吃音のある子どもの保護者の抱える困難と支援の要望に関する面接調査

8歳から24歳の吃音のある子どもを持つ保護者(いずれも母親)14名に、半構造化された面接を実施した。面接では、発吃時、幼児期、小学校期、中学・高校期、青年・成人期の各時期に経験した吃音の困難と、園・学校や吃音臨床の専門機関(保健、医療、特別支援教育、福祉)への要望を尋ねた(表1)。なお、本研究の実施にあたっては所属機関の研究倫理審査委員会(金沢大学人間社会研究域「人を対象とする研究審査」承認番号2022-30)の承認を得た。

表1 面接での質問項目

発吃時
お子さんはいつごろから吃音が出始めましたか?
吃音があるかもしれないと気が付いた時の気持ちはどうでしたか?
吃音が出始めた頃に困ったことは何ですか?
幼児期、小学校期、中学・高校期、青年・成人期(時期毎に)
吃音で何か困りごとはありましたか?
各時期(幼児期、小学校期など)ならでは困ったことはありましたか?
これは嬉しかった、助かったというような支援や対応はありましたか?
どのような支援が欲しかったですか?
受験、就職活動で困ったこと、欲しかった支援はありますか?(中学・高校期、青年・成人期のみ)
吃音は進路選択時になんらか影響を与えましたか?
吃音臨床の専門機関(保健、医療、特別支援教育、福祉)での相談・支援
専門機関での指導・支援で、役に立ったことは何ですか?
専門機関での指導・支援で、役に立たなかったことは何ですか?
専門機関での支援に臨むことは何ですか?

(2) 「吃音のある子どものためのサポートブック(吃音SB)」の作成

(1)の結果を踏まえ、「吃音のある子どものためのサポートブック(吃音SB)」を作成した。作成にあたっては、(1) 幼児期から高校まで利用可能、(2) 保護者、子ども本人の双方が活用できる、(3) 吃音の基礎知識や、吃音のある子どもへの対応や支援方法、吃音の困難の軽減・緩和方法についての情報が掲載されていることを目指した。

4. 研究成果

(1) 吃音のある子どもの保護者の抱える困難と支援の要望に関する面接調査

面接調査で得た保護者の発言を表2に示す。幼児期は、吃音について知らない保護者が多かった。小学校以降は、発表や、他児からのからかいに困る保護者が多かった。また、教員の吃音の理解の程度で、吃音の困難が大きく変わるようだった。支援については、幼児期は、どこに相談したら良いかわからない保護者が多かった。小学校は、ことばの教室の支援が有効と回答した保護者が多かった。中学校以降は、支援の場が少なくなることが伺われた。支援の要望には、幼稚園や学校の先生の吃音の理解の向上や、相談・治療・支援機関の拡充、相談・治療・支援機関についての情報の提供、相談・治療・支援の履歴が一覧できるサポートブックの普及、吃音の言語症状に対する指導の実施などがあった。

表2 面接調査で得た保護者の発言の概要

発吃時
<困ったこと> 周囲に親の育て方が悪いと言われる、どこに相談したら良いかわからない など
幼児期
<困ったこと> 先生の吃音に対する理解が乏しい、他児からの指摘やからかい など
<嬉しかった支援> 特になかった、ことばの教室を紹介してくれた など
小学校期
<困ったこと> 小学校の先生に、吃音の知識がない、学校生活に苦手な活動がある、他児から吃音の話し方をからかわれる、先生が子どもや保護者の思いと異なる対応をする など
<嬉しかった支援> 先生が吃音への理解や配慮をしてくれる など
中学・高校、青年・成人期
<困ったこと> ・進学時に困難が多い、担任の先生以外の教科担任の先生への吃音の理解や支援の浸透が難しい、合理的配慮についての情報提供がされない など
<嬉しかった支援> 先生が、吃音への理解や配慮をしてくれる、高校受験などで配慮をしてもらえる など
専門機関での指導・支援
<役に立ったこと> 吃音の悩みや困難の相談相手になってくれた(子ども、保護者ともに)、吃音についての情報が得られた(子ども、保護者ともに)、我が子の吃音の受容が進んだ、吃音のある子どもやその保護者と出会う機会を提供してくれた、合理的配慮の申請の支援をしてくれた、相談を通して子どもが人間的に成長した など
<役に立たなかったこと> 吃音の言語症状に対する指導がない など
指導・支援の要望
<幼稚園・保育園・学校> 先生に吃音についての知識を持って欲しい、相談先についての情報を教えて欲しい など
<専門機関> 定期的に相談できる機会を提供して欲しい、吃音の専門的な相談ができる機関を拡充して欲しい、吃音の指導が受けられる場の情報が欲しい、吃音の情報の啓発をして欲しい、将来を見据えた支援を行なって欲しい など

(2) 「吃音のある子どものためのサポートブック(吃音SB)」の作成

作成した吃音SBの構成を表3に示す。また、作成した吃音SBの内容の一部を図1~6に示す。吃音SBは、(1) 保護者向け、(2) 吃音のある子ども(小学生以上)向けからなり、子どものプロフィールや吃音の状態、家庭・園・学校、専門機関への要望や対応を記録する「吃音サポートノート[保護者版]・[子ども版]」と、吃音の基礎知識や家庭や学校などへの対応などの情報が掲載された「吃音情報シリーズ[保護者向け]・[園・学校の先生向け]」、「きつ音勉強シリーズ」(吃

音のある子ども向け)、「きつ音理解シリーズ」(子ども向け啓発資料)で構成した。「吃音情報シリーズ」、「きつ音勉強シリーズ」、「きつ音理解シリーズ」は、ホームページ上に掲載した説明資料に加え、動画資料も作成した。

表3 吃音SBの構成

保護者向け
＜吃音サポートノート[保護者版]＞
<ul style="list-style-type: none">・ お子さんについて(好きなこと、苦手なこと、吃音以外で気になること など)・ お子さんの吃音について(吃音の出始めについて、言語症状について、心理症状について、吃音が出やすい時・出にくい時、吃音で困っていること)・ 吃音に関する要望(園や学校への要望、習いごとへの要望、入試・外部試験への要望、クラスでの吃音の啓発の要望、専門機関(言語聴覚士・通級指導教室)への要望)・ 吃音への対応の記録(家庭での対応の記録、園・学校での対応の記録、習いごとでの対応の記録、専門機関での対応の記録)
＜吃音情報シリーズ[保護者向け]＞
<ul style="list-style-type: none">・ 吃音とは(幼児版、小学生版、中高生版)(吃音の言語症状、吃音の心理症状、疫学的治験、原因論、吃音の進展 など)・ 吃音のある子どもの困難(小学生版、中高生版)・ 吃音のあるお子さんへの対応(幼児版、小学生版、中高生版)(環境面への対応、発話面への対応、心理面への対応の吃音の相談機関(保健、医療、福祉、教育、自助団体)、幼稚園・学校の理解と配慮)・ ご家庭での対応の提案(幼児版、小学生版、中高生版)
幼稚園・学校の先生向け
＜吃音情報シリーズ[園・学校の先生向け]＞
<ul style="list-style-type: none">・ 吃音とは(幼児版、小学生版、中高生版)(吃音の言語症状、吃音の心理症状、吃音のある子どもの指導・支援)・ 吃音のある子どもの配慮と支援(幼児版、小学生版、中高生版)(吃音のある子どもの困難、吃音のある子どもと関わる際の基本姿勢、合理的配慮、からかいへの対応)・ クラスへの吃音の啓発(小学生版、中高生版)
吃音のある子ども向け
＜きつ音サポートノート[子ども版]＞
<ul style="list-style-type: none">・ わたしのプロフィール(好きなこと、苦手なこと、きつ音以外で気になること など)・ わたしの吃音について(きつ音の出始めについて、きつ音について、きつ音が出やすい音や言葉・場面、きつ音のある人を苦しめることの問題、きつ音で困っていること、きつ音で困る場面、きつ音が出にくい音や言葉・場面、きつ音が出やすい時・出にくい時)・ まわりの人へのお願い(おうちの人へのお願い、担任の先生へのお願い、[]へのお願い、入試・外部試験、クラスでの吃音の説明、ことばの教室でしたいこと)・ ことばの教室の相談の記録(ことばの教室の相談の記録、作戦会議の記録)
＜きつ音勉強シリーズ＞
<ul style="list-style-type: none">・ きつ音ってなあに？(吃音の言語症状、吃音の心理症状、吃音の基礎知識)・ きつ音って悪いこと？・ 声を出して話す時の体のしくみ・ きつ音が出る時のからだどころ・ きつ音のあるお友達のきつ音への思い・ きつ音を楽にする方法(小学生版、中高生版)・ きつ音をからかわれたら・ きつ音の出にくい話し方(流暢性形成法、吃音緩和法 など)
クラスメイト向け
＜きつ音理解シリーズ(子ども向け吃音啓発資料)＞
<ul style="list-style-type: none">・ きつ音ってなあに(吃音の言語症状、吃音の心理症状、吃音の基礎知識)・ みんなができること

言語症状について

年齢 学年

年月日

音の繰り返し（連発） なし・少し・多い (繰り返しの回数 回)	生活の様子、気になること
音の引き伸ばし（伸発） なし・少し・多い (引き伸ばしの時間 秒)	
音の詰まり（難発） なし・少し・多い (詰まりの時間 秒)	
発話時の力 (どこか? 口・のど・顔・手・足・その他)	
随伴運動 (どのような?)	

年月日

音の繰り返し（連発） なし・少し・多い (繰り返しの回数 回)	生活の様子、気になること
音の引き伸ばし（伸発） なし・少し・多い (引き伸ばしの時間 秒)	
音の詰まり（難発） なし・少し・多い (詰まりの時間 秒)	
発話時の力 (どこか? 口・のど・顔・手・足・その他)	
随伴運動 (どのような?)	

年月日

音の繰り返し（連発） なし・少し・多い (繰り返しの回数 回)	生活の様子、気になること
音の引き伸ばし（伸発） なし・少し・多い (引き伸ばしの時間 秒)	
音の詰まり（難発） なし・少し・多い (詰まりの時間 秒)	
発話時の力 (どこか? 口・のど・顔・手・足・その他)	
随伴運動 (どのような?)	

図1 吃音サポートノート[保護者版]の内容例

書いた日 年 月 日

おん ひと くる きつ音のある人を苦しめるころの問題

さい 学年

あせりやイライラ
きつ音で思うようにことが出来ない時に、あせったり、イライラしたりする
なし・少し・多い・わからない

予期不安
話す前に、きつ音になる予感がして、不安になる
なし・少し・多い・わからない

言いさえ、話すのをやめる
きつ音にならないために、言いたくないことを他のことばに言い換えたり、話すのをやめたりする
なし・少し・多い・わからない

自信をなくす、自分が嫌になる
きつ音でうまく話せなかったり、話すことから逃げている自分をダメ人と思う
なし・少し・多い・わからない

具体例

図2 きつ音サポートノート[子ども版]の内容例

吃音とは

言語症状

心理症状

- 思い通り話せないことへの苛立ちや欲求不満
- 恥ずかしい、いけない・ダメと思う
- 言語症状が出ることへの不安
- 言いかえたり、避けたりする
- 自己効力感、自己肯定感の低下

図3 吃音情報シリーズ[保護者向け]の内容例

特別な配慮(合理的配慮)の検討

実施方法の変更

- 司令の発言内容や順番を変える
- 英語のスピーキングテストを別室で先生と1対1で行う

評価基準の変更

- 音読の評価の際、吃音による詰まりを減点しない など

免除 (慎重に行う必要がある)

- 授業中に発表をあてない
- 音読のテストを免除する
- 日直当番をあてない など

図4 吃音情報シリーズ[先生向け]の内容例

きつ音を楽にする方法

いろいろある!

図5 きつ音勉強シリーズの内容例

みんなができること

②からかってはいけません

図6 きつ音理解シリーズの内容例

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小林宏明	4. 巻 40
2. 論文標題 吃音のある子どもへの多面的・包括的指導・支援：研究・実践の紹介と提案	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 コミュニケーション障害学	6. 最初と最後の頁 48-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林宏明	4. 巻 37
2. 論文標題 「吃音への思いや困難」に寄り添い進める指導	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 特別支援教育の実践情報	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件/うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Hiroaki Kobayashi
2. 発表標題 Difficulties faced by parents of children who stutter and their requests for support in Japan.
3. 学会等名 32nd World Congress of the IALP(International Association of Communication Sciences and Disorders) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Hiroaki Kobayashi
2. 発表標題 Development of a “Support Book” for Children Who Stutter and Their Parents
3. 学会等名 11th World Congress on Stuttering and Cluttering (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 小林宏明
2. 発表標題 吃音のある子どもの多面的・包括的指導・支援 吃音がある子どもの多面的・包括的指導・支援
3. 学会等名 第48回日本コミュニケーション障害学会学術講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 サイイキツ, 小林宏明
2. 発表標題 中国と日本における吃音者の困難と合理的配慮に関するアンケート調査
3. 学会等名 日本吃音・流暢性障害学会第10回大会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

吃音ポータルサイト 金沢大学人間社会学校教育系宏明のホームページ https://www.kitsuon-portal.jp/

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------